地域の課題の解決策を考える流れ

地域の課題の解決策は、どのように考え、どのように確かめればよいか

課題（架空の町の例）　バスの本数が減り、高齢者が買い物に行きにくくなっている

① 現状をつかむ

地図

バス停と店の位置をたしかめる

統計

バスの本数、高齢者の割合の変化を調べる

聞き取り

住民や店の人の話を聞く

読み取れた事実と、自分の解釈を分ける

② 要因を考える

買い物に行きにくい

↓ なぜ？

バスの本数が減った

↓ なぜ？

バスの利用者が減った

↓ なぜ？

人口が減った・車で移動する人がふえた

③ 解決策を複数出す

A 移動販売の車が、地区を回る

B 予約に合わせて小さなバスを走らせる

C 住民どうしで、車で送りむかえをする

④ 立場ごとに評価する

	住民	店	行政	学生
A	○	△	○	○
B	○	○	△	○
C	△	○	○	△

○ よい面が多い　△ 課題もある（例）

費用・担い手・長く続けられるか（持続可能性）を、立場ごとに話し合う。立場によって評価はちがう。

⑤ 提案する

選んだ案と理由を、根拠（地図・統計・聞き取り）とあわせて説明する。

地図やグラフを使うと、伝わりやすい。

ほかの意見も聞いて、多くの人が納得できる形に話し合って直す。

ほかの地域の取り組みを参考にする

似た課題のある地域の例を調べて比べ、この町の様子に合うように考え直す。

意見を受けて、案を見直す（③にもどる）

※ 架空の町の例。案と○△は考え方を示す例で、正解を示すものではない。段の分け方は一例。